

令和2年度事務事業評価シート（重点戦略事業・一般事務事業用）

評価対象年度 H 31 年度

1 基本情報

事業名	(仮称) 谷田・清戸市民の森整備事業		コード	2 - 3 - 1 - 1			
位置づけ	みどり活用プロジェクト		みどりがつながるまちづくり				
	自然とのふれあいや癒しの場としての里山の保全と活用						
事業期間	平成20年度 ~ 令和2年度	担当	都市建設部	都市計画課	課等長	東山 智	
予算科目	会計 一般 款 7 項 4 目 2 事業	(仮称) 谷田・清戸市民の森整備事業					
根拠法令			事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 市単独事業 <input type="checkbox"/> 補助事業			

2 事業概要 (Plan)

事業実施の背景	H21年度から千葉の里山・森づくりプロジェクト（県事業）を推進するため、谷田・武西地区においてNPOや事業者、行政などと協働し保全と活用システムを築き取り組みとして開始した。			
目的	対象（誰・何を）	意図（どういう状態にしたいか）		
	市民、環境関係団体	良好な自然環境を維持・保全し、里山や森林の新たな活用を図る。		
手段	・(仮称) 谷田・清戸市民の森を、地元代表者・関係団体等と市が連携・協働して新たな環境保全に取り組む仕組みを構築し整備			
	全体計画	H30年度計画	H31年度計画	R2年度計画
	162,387㎡	・土地所有者や地区との協議 ・基本構想策定 ・維持管理(除草) ・協議会設置(市民・関係団体等で整備方針検討)	・土地所有者や地区との協議 ・維持管理(除草)	・土地所有者や地区との協議 ・維持管理(除草)
	※ H27未現在取得済面積：107,305㎡	・民有地の賃貸等目標面積：約8.1ha		

3 取組状況 (Do①)

H31年度取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>整備区域素案（土地所有者による個別交渉により作成）を地元代表者による会議を提示した。</li> <li>環境部局との現地把握により、貴重な動植物の生存を確認した。</li> </ul>	
改善策取組状況	前年度以前評価での改善項目	改善状況（前年度評価に基づかない改善事項等も含む）

4 コスト (Do②)

区分		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	H31年度決算	R2年度予算
事業費計 A		263	224	66	0	2	5
財源内訳	国県支出金						
	受益者負担 B						
	地方債						
	その他						
一般財源		263	224	66	0	2	5

区分		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	H31年度決算	R2年度予算	
人件費計 C		3,177	3,244	3,180	1,595	782	782	
内訳	正職員	人数	0.40	0.40	0.40	0.20	0.10	0.10
		人件費	3,177	3,244	3,180	1,595	782	782
	臨時職員等	人数						
		人件費						
総コストD=A+C		3,440	3,468	3,246	1,595	784	787	
市民1人コストD/人口(円)		54.45	54.70	50.88	25.04	12.38		
受益者負担率B/D(%)								

5 指標 (Check①)

指標名		単位	区分	H29年度	H30年度	H31年度	R2年度	指標の説明	
①	(仮称) 谷田・清戸市民の森用地取得(賃借)面積率	%	目標	66	100	100	100	当初計画に対する(仮称)谷田・清戸市民の森事業用地取得面積率	
		実績	66	66	66				
	種別 成果指標 指標の方向	↓ 達成率	100.0	66.0	66.0				
指標1 単位当たりコスト(千円)				-	-	16.0	7.9	コスト効率	向上
②			目標						
			実績						
	種別	指標の方向	達成率	-	-	-	-		
指標1 単位当たりコスト(千円)				-	-	-	-	コスト効率	-

6 事業の評価 (Check②)

項目		評価	評価の理由・課題
有効性	指標目標を達成したか、意図の実現に近づいているか	×	良好な自然環境の保全（生物多様性保全）と整備水準の整合性が確保できない。保全区域が確定していない。
	手段は適切か、施設等の整備水準は適切か	×	
効率性	業務プロセス（進め方・手続き）に工夫の余地はないか	○	土地所有者及び地元代表者との協議は、丁寧な説明・理解が必要であり改善の余地はない。
	工法の見直しなど事業費の削減の余地はないか	○	
	補助金などの財源を更に活用する余地はないか	○	
	実施体制（事務分担など）に工夫の余地はないか	○	

7 今後の方向性 (Action)

事業の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 改善して継続 <input type="checkbox"/> 現状のまま継続 <input type="checkbox"/> 休廃止 ( 年度 ) <input type="checkbox"/> 終了 ( 年度 )
	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 整備内容・水準の見直し (実施時期： R 2 年 月)</li> <li>■ 整備スケジュールの見直し (実施時期： R 2 年 月)</li> <li>■ 業務プロセスの改善 (実施時期： R 2 年 月)</li> <li><input type="checkbox"/> 工法や仕様の見直し (実施時期： R 年 月)</li> <li><input type="checkbox"/> 特定財源の活用 (実施時期： R 年 月)</li> <li><input type="checkbox"/> 臨時・再任用職員の活用 (実施時期： R 年 月)</li> <li><input type="checkbox"/> その他 (実施時期： R 年 月)</li> </ul>
改善内容	(仮称) 谷田・清戸市民の森の適切な整備水準を設定し、関係者との協議材料とするため、貴重な動植物と生物多様性の実態を把握する、環境調査の実施を検討する。良好な自然環境の保全の実現に向けて、環境調査の内容も含めたスケジュールの見直しを検討し、整備内容・水準及び業務プロセスの改善を検討する。
改善により期待される効果	貴重な自然環境を再認識及び可視化により、整備内容・水準の見直しを図ることが出来る。

令和2年度事務事業評価シート（重点戦略事業・一般事務事業用）

評価対象年度 H 31 年度

1 基本情報

事業名	沿道みどりの推進事業		コード	2 - 3 - 2 - 1		
位置づけ	みどり活用プロジェクト		みどりがつながるまちづくり			
	市民によるみどりのネットワークづくりに対する支援					
事業期間	平成28年度 ~ 令和2年度	担当	市民環境経済部 環境課	課等長	金井 正	
予算科目	会計 一般 款 4 項 1 目 4 事業	★沿道みどりの推進事業				
根拠法令	白井市沿道みどりの推進事業補助金交付要綱		事業区分	■ 市単独事業 □ 補助事業		

2 事業概要 (Plan)

事業実施の背景	「花いっぱい運動」として、年2回、植栽活動を行う団体へ花の苗等の配布を続けてきたが、植栽時期が限定される等の課題があったため、団体が購入した草花の苗等の経費の一部を補助すること					
目的	対象（誰・何を）		意図（どういう状態にしたいか）			
	市民・市民団体等		沿道のみどりを増やすことにより、癒しの空間を広げ、ウォーキングや散策の活用等による、市民の憩いの場を創出する。			
手段	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金等 <input type="checkbox"/> 協働 <input type="checkbox"/> その他 ・市内の沿道に草花を植栽する団体に対し、草花の苗等の購入に要した経費の一部を補助（一万円を上限）					

3 取組状況 (Do①)

H31年度取組状況	・市内の沿道に草花を植栽する団体（45団体）に対し、草花の苗等の購入に要した経費の一部を補助（一万円を上限） ・市HPや広報による周知 ・環境フォーラムで団体の植えた草花等をパネル展示で紹介し、市民に本事業の取り組みを周知					
改善策取組状況	・補助金を交付した団体に、団体名を記載した車庫のフ 前年度以前評価での改善項目 改善状況（前年度評価に基づかない改善事項等も含む） 環境フォーラムのパネル展示で、団体ごとの活動場所を地図に落とし込み掲示したことにより、活動範囲の見える化を図ることができた。					

4 コスト (Do②)

区分		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	H31年度決算	R2年度予算	
事業費計 A			347	365	445	435	504	
財源内訳	国県支出金							
	受益者負担 B							
	地方債							
	その他				300	400	400	
一般財源	0	347	365	145	35	104		
人件費計 C		0	811	795	798	1,563	1,563	
内訳	正職員	人数	0.10	0.10	0.10	0.20	0.20	
		人件費	0	811	795	798	1,563	1,563
	臨時職員	人数						
		人件費						
総コストD=A+C		0	1,158	1,160	1,243	1,998	2,067	
市民1人コストD/人口(円)		0.00	18.26	18.18	19.50	31.56		
受益者負担率B/D(%)								

5 指標の推移 (Check①)

指標名		単位	区分	H29年度	H30年度	H31年度	R2年度	指標の説明	
①	補助金の交付団体数	団体	目標	40	45	45	50	市から補助金の交付を行った団体数	
			実績	39	45	45			
種別	活動指標	指標の方向	→	達成率	97.5	100.0	100.0		
指標1単位当たりコスト(千円)				29.7	27.6	44.4	41.3	コスト効率	低下
②	種別	指標の方向	目標					コスト効率	-
			実績						
指標1単位当たりコスト(千円)				-	-	-	-		

6 事業の評価 (Check②)

項目	評価	評価の理由・課題
必要性		
市が関与する必要性は薄れていないか	○	市民の団体活動を支援することで市民の自主性や緑化活動が促進され、地域社会や市民に癒しや憩いの場を創出する効果があるので市が関与する必要性や実施の意義は高い。
対象者の減少など事業の実施意義は薄れていないか	○	
事業を実施しないと市民や地域社会に不利益が生じるか	×	
対象や意図を限定又は拡充する必要はないか	○	
有効性		
国・県・民間に類似の事業・サービスはないか	○	白井市第5次総合計画前期実施計画内で、みどりのネットワークをつくること（植栽された花）が線（チェーン）になっていないのが、現状である。
指標目標を達成したか、意図の実現に近づいているか	○	
他事業との連携・統合の余地はないか	○	
手段は適切か、サービス水準は適切か	×	
効率性		
民間委託や市民団体等との協働の余地はないか	○	現在の業務プロセスで効率よく業務が進められているため改善の余地はない。
受益者負担について見直す余地はないか	○	
業務プロセス（進め方・手続き）に工夫の余地はないか	○	
実施体制（事務分担など）に工夫の余地はないか	○	
市民・対象者ニーズの状況・内容	■ 増加傾向 □ 変化なし □ 減少傾向 平成31年度については、補助金申請枠が全て埋まり全団体に補助金を交付することができたため、対象者のニーズは増加していると考えられる。	

7 今後の方向性 (Action)

事業の方向性	改善して継続 □ 現状のまま継続 □ 休廃止 (年度) □ 終了 (年度)	
事業の方向性	<input type="checkbox"/> 目的（対象・意図）の再設定 (実施時期： R 年 月) <input checked="" type="checkbox"/> 手段・サービス水準の見直し (実施時期： R 2 年 4 月) <input type="checkbox"/> 他事業との連携・統合 (実施時期： R 年 月) <input type="checkbox"/> 業務プロセスの改善 (実施時期： R 年 月) <input type="checkbox"/> 民間委託を導入・拡大 (実施時期： R 年 月) <input type="checkbox"/> 市民等との協働を導入・拡大 (実施時期： R 年 月) <input type="checkbox"/> 受益者負担の見直し (実施時期： R 年 月) <input type="checkbox"/> 臨時・再任用職員の活用 (実施時期： R 年 月) <input type="checkbox"/> その他 (実施時期： R 年 月)	
	改善内容	点（植栽された花）が線（チェーン）になっていないため、複数団体の協働について、窓口での手続き時やホームページ等で周知を実施していく。
	改善により期待される効果	複数団体の協働が実現することにより、みどりのネットワークが一層拡大していくことが考えられる。